



学校だより

清流

立山町立立山中央小学校

令和3年6月

「心の教育」の充実を！

～道徳科の学習～

今回は「道徳」についてお話しします。

平成30年度から道徳の時間が教科となり、評価も始まりました。評価については数値で評価するのではなく、子供の良さを積極的に認めていく記述式のものとなっています。立山区域の小学校では年度末（3学期）にホップ・ステップ・ジャンプに記述することになっています。

（1、2学期は子供との面談や個別懇談会等で子供の良さをお知らせします）



保護者の皆様も道徳の授業を受けてこられたことと思います。どのような授業だったか覚えていますか。道徳が教科になった背景には、いじめ問題や規範意識の低下等の対応があります。例えば、良くない行いをして注意されても、「～していたのは自分だけじゃない」「なぜ自分だけが注意されなくてはいけないのか」と反省するどころか逆に注意されたことに対して不満をもってしまう子供が増えているようです。このような子供たちの心を耕すためには、道徳の時間

だけではなく教育活動全体を通して「心の教育」を大切にしていくことが求められています。道徳の時間で学ぶ内容には、様々な道徳的価値に対して「自分のこととして考える」「これからの自分の生き方について考える」ことが必要です。例えば、「きまりはなぜあるのか」「きまりは守らなければいけないのか」「きまりだから守るのか」という価値に対する様々な考えから、「自分はどうかだったか」「それでよかったのか」「これからはどのようにしていくことがよいのか」と自分の生き方に結び付く考えをさせていくことが大切です。そのために子供たちが自ら考え、その考えを自由に言い合うことのできる学級づくり、そして、授業づくりが求められており、本校でも全学年で取り組んでいるところです。自分の考えを自由に言い合える力を高めるためには学級会や国語の時間等で実際に鍛えることができます。しかし、道徳の時間においては、授業の狙いとする思いに迫り、よりよい価値観に気付かせることが大切です。子供たちが互いに考えを発表し合う中で、「そういうことだったのか」「〇〇さんの考えはすばらしいな」「自分は今までやろう思わなかったな」

「今度から自分もやってみようかな」というように話し合いを通して考えが深まっていくことを期待したいものです。学年の発達段階に応じて、多様な考え方を引き出す工夫をして、子供たちが自由に話合うことのできる学級づくりや授業づくりに努め、「すてきな心、心根のやさしい中央っ子」を育てていきたいと思っています。

ご家庭の方でも、「今週はどんな道徳の学習だった？」「どんなことを考えたの？」などと問いかけ、家族で「心の学習」をしていただければと思います。

